

カナダから議員団が来日

上下両院議長など友好を深める



ジェローム下院議長。1933年3月生まれ。トロント大学卒。1957年法曹界入り。市会議員などをへて1968年下院議員に当選。72年、74年再選。各種委員会の委員長をしたあと、74年から現職に。72年NATO代表。自由党所属。



ラボワンテ上院議長。1912年1月生まれ。ドミニオン音楽大学で音楽ラバル大学で社会学、文学、言語などを修めたあと、1939年にジャーナリズムに入る。モントリオールで記者、編集者として活躍。シャルボノ一枢機卿の伝記はベストセラーになり、1965年に1965年の最優秀記者賞を受ける。70年インディアン、北方開発省の広報担当、70年から72年まで3年間国連代表。71年上院議員に任命され、74年から現職に。自由党所属。

各分野での日加交流が活発になっているが、四月には衆参両議長の招きでカナダから上下両院議長を含む議会議員団七人が来日し、政府内外の関係者を訪問して友好を深めた。カナダの両院議長がそろって一國を訪問するのははじめて。

ルノー・ラボワンテ上院議長、ジェームス・ジェローム下院議長に率いられた一行は、十七日に到着、十九日には衆議院で前尾議長、参議院で河野議長、さらに総理官邸で三木首相などを訪問したほか、三月に結成された日加議員連盟のメンバーと外交問題、資源や製造業などの二国間経済関係、都市問題、公害問題、漁業問題、学術・文化交流など、日加間の共通の関心事項について懇談した。一行は、また、福田副総理、官沢外務大臣、大平大蔵大臣、河本通産大臣を訪問し、意見を交わした。なお、野党の新民主党党首エド・ブロードベント下院議員は民社党幹部および社会党の成田委員長とも懇談した。

議員団は二十日大阪へ向かい、鐘紡、

松下電器を訪問したあと、京都を見学、二十二日に帰京して、翌二十三日帰国した。

議員団語録

日加関係の強化について——「海洋法、環境保護、核拡散防止など、二つの国が手をつなげる分野は少なくありません。(日本はカナダにとつて二番目に大きい市場だが)、工業製品は対日輸出のたった三%。一次産品ばかりでなく、もっと付加価値の高いものも買っていただかなくは」(ラボワンテ上院議長、朝日新聞記者との会見で)。

東京の第一印象——「千二百万人もかえる大都会でありながら、驚くほど静かだったこと。あなた方の法と秩序の順守ぶりには舌を巻きま

した」(ジェローム下院議長、毎日新聞記者との会見で)。

議員内閣制について——「米国の制度はそれなりに魅力的な特徴を持っているが、日々の必要に対応する上では、柔軟性や即応性に欠けるきらいがある。結局、長い目で見れば、議院内閣制の方に軍配が上がるのではないか」(同)。

ビルマ戦線で重傷を負った日本兵からあずかった日章旗について——「われわれはともに祖国のために戦う兵士だった。幸い助かった私がこの旗を日本の家族に返すのは私の義務だと思う。なんとかして見つけ出したい」(ケンプリング下院議員、サンケイ新聞)。

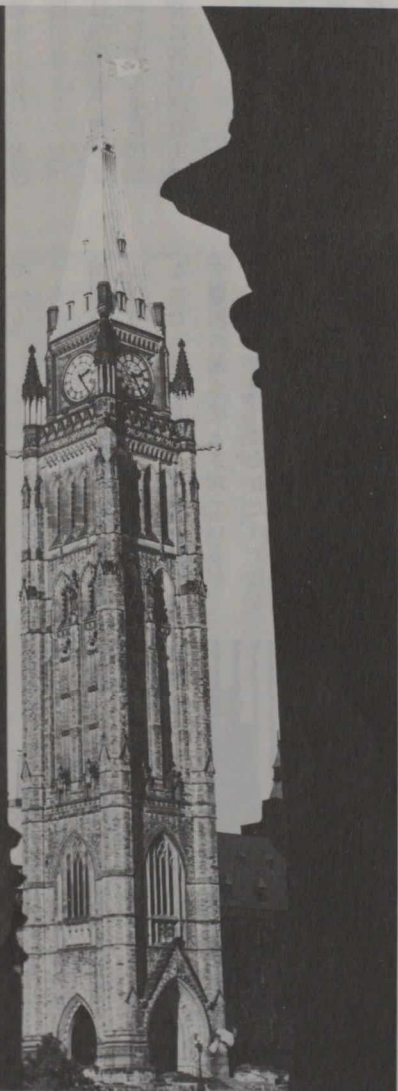
連邦議事堂を写真で紹介

カナダ連邦議会議員団の訪日を機会に、カナダ大使館は、国会図書館の協力を得て、同図書館六階で「カナダ議会展——歴史の記念碑」を開いた。これは、首都オタワにあるカナダ連邦議事堂の建物を紹介するとともに、カナダの歴史や政治制度を理解してもらおうというもので、議事堂本堂の模型のほか、七十八点の写真(いずれもカナダ国立映画制作庁が撮影)が展示された。

四月十九日の開会式にはカナダの両院議長のほか、前尾衆院

議長、日加議員連盟のメンバーなど、多数の関係者、来賓が参列した。

◀カナダ議会議事堂本堂の平和の塔。首都オタワが一望できる。



(左) 議事堂本堂の正面玄関にあるライオンと一角獣の像。君主制を守護する象徴である。
(右) 連邦の広間—ロタンダ(円形の大広間)とも呼ばれる。

